

税金ほど高いものはない

明治時代に「学問のすすめ」に書いてある。

「およそ世の中に、何が上手い商売かといつて、税金を払って政府の保護を買うほど安いものはない」とありますが、今の時代は本当にそうなのでしょいか。

強い国に、にやけへつらい子供を放射能の人体実験のモルモットで、財務省が消費税

を上げ、さらに電力料の値上げと確実に国民の生活を破壊し、鬼か狂気と化す民主党政府。こんな国に誰がした。

政府が役割を逸脱し、暴政を行う時がある。この時人民が取るべき行動は三つある。

すなわち、信念を曲げて政府に従うか、力を持って敵対するか、身を犠牲にして正義を守るか、この三ヶ条だ。

最初の、「信念を曲げて政府に従う」のは大変良くない。

人民は、苦しめられることを恐れ、結局「犬の糞でかたき」を取る事となり卑劣だ。二番の「力を持って敵対する」は、必ず仲間が必要となる。すなわち、内乱であり決して上策ではない。人心は残忍になり、獣のような行為をしながら、天下の人情を厚く

民事裁判の掟

しようとする、つじつまが合わない。

三番の「身を犠牲にして正義を守る」は、天の道理を信じて疑わず守り、どんな過酷

私が見たチャップリンで、大好きなのが「ライムライト」と「街の灯」「モダンタイムス」、愛の映画です。

どの映画も、ラストシーンが強く胸を打ち涙を誘う。

「モダンタイムス」で最後に流れる名曲「スマイル」を作曲、今でも多くの歌手に歌い継がれています。

中でも絶品は09年(50歳)で亡くなったマイケルジャクソンです。彼の歌を聴くと、マイケルの優しさに吸い込まれ、涙を流すほです。

「ライムライト」は52年にイギリスで公開のアメリカ映画。ス

な法で苦しめられようと、暴力を使わず道理を政府に訴えることが、この策が上策の上とする。

敵対すれば、必ず怒る。役人も同じ国民、身を犠牲にして静かに道理を説く者に、同情する心、過ちを悔いあまり強く出れない。

民事裁判にしろ、政権争い

にしろ、仇討ちにしろ、自殺にしろ、文明の目的に沿って、社会全体に安全と繁栄をもたらす、文明に貢献するかで決めるべきである。



チャップリンとカサブランカ

そして「カサブランカ」は、遡ること10年前の42年に公開された反ナチのアメリカ映画。カサブランカ(フランス領モロッコ)で酒場を経営するリック(ハンフリー・ボガード)。彼は昔の恋人、エルザ(イングリッド・バーグマン)に再会するが、彼女には反ナ

チ運動を指導する夫がいた。エルザに裏切られながらも、いまだに彼女を忘れることが出来ないリック。ラストシーンはナチの目を盗んで2枚しかない航空券に3人の乗客。その時リックは二人を無事、アメリカへ脱出させる。ラブロマンスの金字塔です。

酒場の「時の過ぎゆくままに」の名曲と、「そんな昔のことは忘れた、そんな先のことはわからない。」の台詞が有名。いずれも味わい深いモノトーン映画です。



(有)西川経営オフィスサービス
中村会計

事務所便り
2011年6月6日(月) NO 199
地域から明るい未来を作ろう